

網走医師会会長



中山 衡司 先生

本年、定時会員総会当日の5月24日の臨時理事会等で、中山衡司先生が新会長職に選任され、就任しましたので、ご紹介させていただきます。

中山先生は、昭和25年に、中山小児科診療所を開設された中山衡一先生のご子息ではありますが、平成22年3月1日からは医院を移転新築し、理事長職と院長職を兼ねての内科・小児科・漢方を標榜する医療に携わっております。

昭和28年2月11日生まれの、現在、満64歳。医師としては成熟期でしょうか、まだまだ頑張り続けていただく年齢でもあります、「小児科」を標榜する開業医の開設する医院としては、昨今の斜網地域的な状況からは「最後の牙城」ともなっています。

先生は、網走の中学、高校を卒業後、帝京大学医学部に進学、大学院も修了され、昭和62年3月には医学博士の学位も取得し、小児科医としての研鑽、経験も豊かと、拝察いたしております。

先生は、一次救急当番医療機関として長らく携っているだけでなく、自らの医療機関の運営管理そこのけで、福祉医療行政にも協力するなど、「斜網地域の医療の存続と、医療サービスの向上」をテーマとしていることもあり、率先し、行政との関わりを強めながらご尽力されておりますが、この地域の医療、地域住民に対して貢献している姿も、お伝えせずにはられません。

最近では、たばこ喫煙の弊害により「禁煙のススメ」を提唱していますが、今日的には、国も、全国の医師会も、受動喫煙防止対策に取り組んでいることもあり、時代的要請というか、重要な国家国民的課題ともなっていますし、ご理解はいたしております。

また、先生からは、最近「覆水盆に返らず」「出る杭は打たれる」のことわざと、「出過ぎた杭は打たれない」(永六輔氏)と「出ない杭は腐る」(五木寛之氏)の名言を自らの戒めとして、また、座右の銘のごとく噛みしめているとお聞きいたしました。が、医師としての本分、信念、信頼からは含蓄もあると、理解できます。

また、愛読書が「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず…」で始まる、鴨長明の「方丈記」と聞いて、格言としては同様の趣旨、志向とも受け取れて、うがっていましたが、時代は違っても、どんな災害、困難が起きても、冷静沈着にその趨勢を見極めてから決断をしていきたいと思ひも、どこかにあるのでしょうか。

雑ばくなご紹介ではありますが、先生自身も、未永く健康に十二分に留意され、この斜網地域の医療の過疎化の抵抗勢力の旗頭として、邁進されますことを陰ながらお見守りいたします。

その柔和な物腰の中にも、強い眞を貫く姿勢と、定評のある患者本位の「優しさ」を保たれ、私たちの網走医師会と、地域医療の未来に、明るい展望をお示しいただければとご期待しながら、中山衡司新会長のご紹介といたします。

北海道医報通信員
網走医師会理事 浜向 伸治

北海道医師会は、 北海道に在住するすべての医師が利用できる 女性医師等支援事業を 推進しています。

北海道医師会は、医師の育児支援や仕事と家庭の両立を支援するために現役の先輩医師による相談窓口を開設しています。この窓口は、北海道に在住するすべての医師が利用できます。詳しくは、下記専用ホームページをご覧ください。

- 相談窓口 ●育児支援 ●復職研修支援 ●介護支援

北海道医師会 女性医師等支援相談窓口

●詳しくはこちらをご覧ください 「女性医師等支援相談窓口」専用ホームページ <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>
●ご相談はこちらへ ☎ 0120-112-500 FAX 011-231-7272 E-mail josei-dr-shien@m.douji.jp
北海道医師会 〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 <http://www.hokkaido.med.or.jp/>

男性医師の
アクセス歓迎

